

アナフィラキシーの既往がある方は

過去にあった症状に ☒ チェックしてください。

◆症状のチェックは緊急性の高い、左の欄から行う

◆今後の対応内容を保護者と確認

全身	☐ ぐったり ☐ 意識もうろう ☐ 尿や便を漏らす ☐ 脈が触れにくい/不規則 ☐ 唇や爪が青白い		
呼吸器	☐ のどや胸が締め付けられる ☐ 声がかすれる ☐ 犬が吠えるような咳 ☐ 息がしにくい ☐ 持続する強い咳き込み ☐ ゼーゼーする呼吸	☐ 数回の軽い咳	
消化器	☐ 持続する強いお腹の痛み (がまんできない) ☐ 繰り返し吐き続ける	☐ 中等度の お腹の痛み ☐ 1～2回の嘔吐 ☐ 1～2回の下痢	☐ 軽いお腹の痛み (がまんできる) ☐ 吐き気
目・鼻・顔	上記の症状が 1つでも当てはまる場合		☐ 顔全体の腫れ ☐ まぶたの腫れ
皮膚	☐ 強いかゆみ ☐ 全身に広がるじんま疹 ☐ 全身が真っ赤		☐ 目のかゆみ、充血 ☐ □の中の違和感・唇の腫れ ☐ くしゃみ、鼻水、 鼻づまり ☐ 軽度のかゆみ ☐ 数個のじんま疹 ☐ 部分的な赤み

1つでも当てはまる場合

1つでも当てはまる場合

今後の対応内容

- ①ただちにエピペン[®]を使用
エピペン[®](有・無)
②救急車を要請(119番)
③その場で安静を保つ
④その場で救急隊を待つ
⑤可能なら内服薬を飲ませる
()

- ①内服薬を飲ませ、エピペン[®]を準備
②速やかに医療機関を受診
(救急車の要請も考慮)
③医療機関に到着するまで少なくとも
5分ごとに症状の変化を観察
緊急性の高い症状が1つでも当ては
まる場合、エピペン[®]を使用

- ①内服薬を飲ませる。
()
②少なくとも1時間は5分ごとに症状
の変化を観察し、症状の改善が見
られない場合は医療機関を受診
()

厚生労働省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン(2019年改定版)」P37「症状チェックシート」を参考に作成

<参考>

表 アレルギー症状の重症度評価と対処法

		グレード1(軽度)	グレード2(中等度)	グレード3(重度)
皮膚・粘膜症状	紅斑・蕁麻疹・膨疹	部分的	全身性	←
	掻痒	軽い掻痒(自制内)	強い掻痒(自制外)	←
	口唇、眼瞼腫脹	部分的	顔全体の腫れ	←
消化器症状	口腔内、咽頭違和感	口、のどのかゆみ、違和感	咽頭痛	
	腹痛	弱い腹痛	強い腹痛(自制内)	持続する強い腹痛(自制外)
	嘔吐・下痢	嘔気・単回の嘔吐・下痢	複数回の嘔吐・下痢	繰り返す嘔吐・便失禁
呼吸器症状	咳嗽、鼻汁、鼻閉、くしゃみ	間欠的な咳嗽、鼻汁、鼻閉、くしゃみ	継続的な咳嗽	持続する強い咳込み、犬吠様咳嗽
	喘鳴、呼吸困難	-	聴診上の喘鳴、軽い息苦しさ	明らかな喘鳴、呼吸困難、チアノーゼ、呼吸停止、SpO2≤92%、締め付けられる感覚、嘔声、嚥下困難
循環器症状	脈拍、血圧	-	頻脈(+15回/分) 血圧軽度低下*1、蒼白	不整脈、血圧低下*2、重度徐脈、心停止
神経症状	意識状態	元気がない	眠気、軽度頭痛、恐怖感	ぐったり、不穏 失禁、意識消失
治療	抗ヒスタミン薬	必要に応じて	○	○
	呼吸器症状に対する 気管支拡張剤吸入	-	○	○
	ステロイド	-	必要に応じて	○
	アドレナリン	-	必要に応じて	○

※症状の重症度は一番
重い臓器の症状を用いる。
本表の記載はあくまでも重
症度と治療の目安であり、
治療は状況によって変りう
る。

*1 血圧軽度低下：
1歳未満<80mmHg
1-10歳<[80+(2×年
齢)]mmHg
11歳-成人<100mmHg

*2 血圧低下：
1歳未満<70mmHg
1-10歳<[70+(2×
年齢)]mmHg
11歳-成人<90mm